



竹内 功治
(創造みらい半田)



半田市の魅力をさらに伝えるための観光施策

問 観光庁によると国内外の宿泊者数がコロナ禍前を上回ったとのことですが、観光の需要が高まっていますが半田市の現状と取組みを伺います。

市内施設の来場者数はコロナ禍前まで回復の見込みです。また、名古屋鉄道が名古屋市を核に新たな観光組織を立ち上げます。半田市も広域連携を行いながら遠方からの誘客を図ります。

問 半田市の食の魅力を活かした新たな取組みを行っていますか。

その土地の気候風土が生んだ食材や伝統など食と旅を楽しむ「ガストロノミーリズム」の造成を進めています。例えば地元産の知多和牛と味噌・酢の発酵

調味料、日本酒を使用した料理や醸造工場見学などです。

問 常時、特産の日本酒やカブトビールが試飲購入できる場所を造ってはどうか。

現在は考えていません。

問 アイプラザ半田内の観光案内所は、駅から遠く観光客から分かりにくいです。例えば駅周辺や半田赤レンガ建物などに移す考えはありますか。

現在の場所は最適ではないと考えており、半田市観光協会など関係機関と新たな拠点を協議します。

問 半田市PR大使を増やして広報の充実を図ってはどうか。

最適な著名人が現れた際、大使の任命を検討します。



田中 高久
(創造みらい半田)



安心して暮らし続けられるまちづくり

問 過去3年間の児童扶養手当の受給世帯の推移を教えてください。

令和2年が1千33世帯、令和3年度が95世帯、令和4年度が92世帯と推移しています。

問 ひとり親家庭に対する、一時的な給付金等の支援策が必要だと思えますが見解を教えてください。

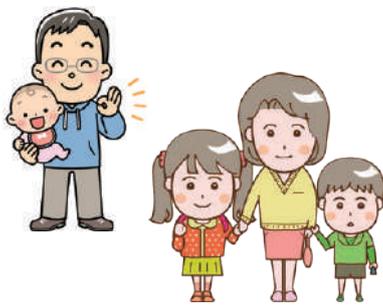
DV等の特別な場合を除き、離婚に伴い一時的にかさむ出費については、ご本人で予め準備してもらうものと考えます。現時点では新たな経済的支援は考えていませんが、引き続き個々の状況に寄り添った支援を行っていきます。

問 ひとり親家庭になる前と後に受けられるサービスの情報発信の状況について教えてください。

ホームページや、ひとり親家庭生活ガイドブックにて発信しています。今後は他機関とも連携して情報を提供していきます。

問 自立生活に向けて2連の流れが分かるようにホームページを充実させる必要があると思いますがいかがでしょうか。

生活ガイドブックを中心に分かりやすいホームページづくりに努め、ひとり親家庭に必要な情報を発信していきます。また、出来るだけ多くの人に知っていただき、一人で悩まれている方へ情報を届けていきます。



坂井 美穂
(公明党)



女性やカップルの将来の妊娠に向けた健康支援

問 女性やカップルの将来の妊娠のための健康管理を提供するプレコンセプションケアをどのように捉えていますか。

未来ある若い男女が早い時期から妊娠や出産の知識を持ち、毎日の生活や健康への意識を高め、自分やパートナーとのライフプランを考えることであり、意義があるものと認識しています。

問 対象となる年齢層への周知が必要であると考えますが、見解を伺います。

プレコンセプションケアの内容について、市ホームページをはじめSNSを活用して周知し、半田市医師会、関係企業や市内学校の

ご意見も伺うなど、効果的な情報発信につながる取組みを行っていきます。

女性の健康支援

問 対象となる年齢層の女性が月経に関する異常、PMS(月経前症候群)、更年期症状・障害の症状を知り、対処できるようにするための情報提供等の支援が必要だと考えますが、見解を伺います。

女性の健康支援及び女性の活躍を推進するにあたっては、ライフステージに応じた適切な情報提供を広く行い、社会全体として支援していく必要があります。多様な機関と連携して女性の健康支援の充実を図っていきます。

